

序論:無視される悲しみと神様の心

① 無視されることの痛み

- 無関心は憎しみよりも深い傷を与える。(マザー・テレサの言葉)
- 愛していた人から無視されることの悲しみは大きい。
- 神様はイスラエルに対して「心が裂けるような思い」だった。

② 神様の呼びかけと人間の応答

- 「わたしはここだ」と語る神様を、人間は無視し続けてきた。
- 今日のテーマ:「神様の呼びかけにどう応じるのか？」

1)「わたしはここだ」と言われる神様(65:1-2)

① 神様の呼びかけ

- 「わたしはここだ、わたしはここだ」と繰り返し呼びかける神様(65:1)
 - ヘブライ語の直訳:「ここだ。わたしを見よ。ここだ。わたしを見よ。」
 - 「無視され続けても神様は存在を示し続ける」
- 64:7におけるイスラエルの姿:
 - 神様の名を呼ぶ者がいなかった。
 - 罪を犯し続け、神様を無視していた。

② 神様の忍耐と人間の反応

- 頑なな民に終日、手を差し伸べ続ける神様(65:2)
- モーセへの啓示:「わたしは『在る』という者である」(出エジプト 3:14)
 - 神様はどんなに否定されても確かに存在される。
 - 私たちは神様をどのように見ているのか？

2)神様に背いて高ぶる民(65:3-5)

① 偶像礼拝と神様への背き

- 「園の中でいけにえを献げ、れんがの上で犠牲を供え」(65:3)
 - 異教の礼拝形式を取り入れた背信行為。
 - 神様の定めた礼拝の場(エルサレム神殿)を無視。
 - 神様の方法を捨て、自分勝手な礼拝をしていた。

② 汚れた行いと霊的高慢

- 「墓地に座り、豚の肉を食べ、霊媒行為を行う」(65:4)
 - 律法違反の行動(レビ記 11:7-8、申命記 18:10-12)
 - 死者との交信を試みる迷信的な行為。
- 「私はあまりにも聖なるものだ」(65:5)
 - 自分は特別だと思い込み、他者を見下す霊的高慢。
 - 偽善的な信仰に対する神様の怒り。

3)罪に報いる神様(65:6-7)

① 神様は罪を見過ごされない

- 「見よ、これはわたしの前に書かれている」(65:6)
 - 神様はすべてを記録し、裁きを執行される。
 - 「わたしは黙っていない」→ 必ず裁きがある。

- 「おまえたちの咎と先祖の咎をともどもに」(65:7)
 - 個人の罪だけでなく、先祖から続く罪にも報いがある。
 - 歴史の中で繰り返される偶像礼拝と背信行為。

4) 本当のしもべには祝福を与える神様(65:8-10)

① 「残りの民」への希望

- 「ぶどうの房の中に甘い汁があるように…」(65:8)
 - 神様はすべてを滅ぼすのではなく、真実のしもべを残される。
- 「ヤコブから子孫を、ユダから相続者を生み出す」(65:9)
 - 神様の祝福を受け継ぐ者がいる。

② 祝福の回復

- 「シャロンは羊の群れの牧場」(65:10)
 - かつて繁栄していた地が再び祝福される。
- 「アコルの谷は牛の群れの伏すところ」(65:10)
 - 呪われた地(ヨシュア 7:26)が祝福に変えられる。

5) 神様を捨てた者への裁き(65:11-12)

① 偶像に頼る者たち

- 「ガドのために食卓を整え、メニのために酒を盛る」(65:11)
 - ガド(幸運の神)、メニ(運命の神)への偶像礼拝。
 - 現代における「運」や「占い」に頼る心と同じ。

② 裁きの執行

- 「わたしはおまえたちを剣に渡す」(65:12)
 - 神様の呼びかけに応じなかった者たちは滅ぼされる。
 - 無視の代償は大きい。

結論: 私たちはどのように応じるか?

① 神様は異邦人にも呼びかけられた

- ローマ 10:20「わたしを探さなかった者たちにわたしは見出された」
 - 神様はイスラエルだけでなく、すべての人に救いを広げられた。
 - 私たちも「わたしはここだ」と呼びかけられている。

② 私たちの選択

1. 世に従い、神様を無視するか?
2. 「残りの民」となり、神様に従い続けるか?

③ 実践的な応答

- 神様を見る時間を第一にする(デボーション・礼拝の優先)。

応答のとき

1. 主を見上げる時(デボーション、家庭礼拝、主日礼拝)を大切にしているか?
2. 神様を見ることを妨げるものは何か? 黙想する。
3. 妨げとなるものをやめる決心をし、神様に従う祈りをする。